



——これまで2回にわたって木材の断面をナノレベルで観察し、優れた透過性があることを確認しました。こうした木材の特性を活かして、例えば薬剤を注入して新たな機能を付与する化学処理木材への応用も可能と思われます。建具分野では、今、どのような処理木材が必要だと思いますか。

守谷 今、一番必要なのは不燃材だろう。冬場は乾燥しているから、全国で住宅火災が起きている。しかも、電気ストーブの火災が多い。不燃材で衝立や柵を作ったストーブの回りに置けば、飛ぶように売れるかもしれない。

——ストーブの安全対策用の柵

新連載

直伝 木づかいのコツ

守谷 和夫

守谷建具（埼玉県）代表

不燃木材への挑戦

第5回

（全20回予定）

参考データ

消防庁によると、平成30年1月～3月における総出火件数は、1万1517件。うち建物火災が6177件。建物火災による死者は1541人。建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は、88.1%を占めている。建物火災の出火原因は、「こんろ」725件(11.7%)、「ストーブ」648件(10.5%)、「たばこ」589件(9.5%)。東京消防庁の調べでは2016年中のストーブ火災のうち電気ストーブが76%を占めている。

◆大事なものはコスト

守谷 つくること自体は難しいことではない。不燃木材の基本的な製造技術は確立してい

は、スチール製のものが主流ですが、もし、不燃材を使えば、木質インテリアとしてデザイン上の調和を図ることもできるようになります。こうした木材製品を作る際に重要なことは何でしょうか。

連載趣旨

循環型資源である木材の利用にあたっては現場で培った経験と科学的見地に基づいた知識が欠かせない。職人の減少に歯止めがかからない状況の中、本誌では、木材加工において豊富な経験と知見を持ち独自の理論を展開している守谷建具の守谷和夫代表に、木の使い方を主なテーマに洗いざらし質問する。

る。問題は、安くつくるための技術が確立していないということだ。だから、守谷建具では、安くつくるための製造方法の確立に目下取り組んでいる。

——不燃木材は、まだ市場では普及しておらず、相場観が把握しづらいものがあります。参考にされる価格を教えてください。

守谷 木材に塗布する不燃薬剤、これは原材料ではなく、誰でも使いやすいように木にしみ込みやすく製造されているプロ向けの不燃木材用の塗料のことだが、平均的な価格としては、おおよそ